

イワシモツケ *Spiraea nipponica* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 16。愛知県の代表的な石灰岩地性植物。県内の生育地は 1 カ所だけで、個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 1~2m になる。葉は多型で、狭長楕円形、倒卵形、倒卵円形、広楕円形、楕円形などのものがあり、先端は円頭または鈍頭、長さ 1~4.5cm、辺縁は全縁または先端部に 2~3 個の鈍鋸歯があり、裏面は粉白色または淡色である。花期は 5~6 月、今年枝の先端の散房~複散房花序に、10~20 個の白色の花をつける。花は直径 6~7mm、花弁は 5 枚である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部 (石巻山, 芹沢 51921, 1989-6-17)。ごく狭い範囲に小群落がある。

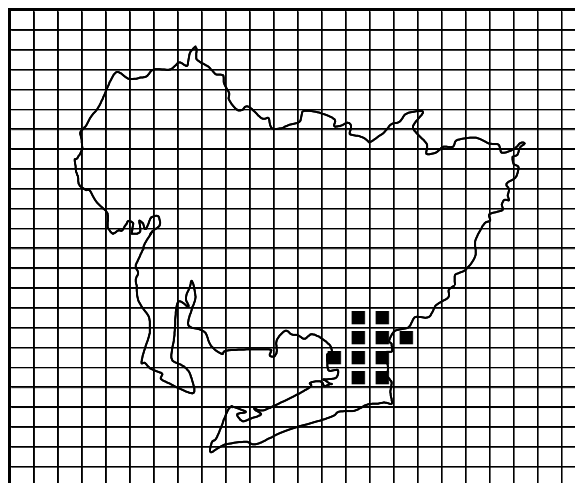
【国内の分布】

本州 (近畿地方以東) の山地の岩場に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境/生態的特性】

山地の岩上に生育する。しばしば石灰岩地や蛇紋岩地に見られ、愛知県の生育地も石灰岩地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況/減少の要因】

自生地は国指定天然記念物として保護されているが、近年の夏の高温乾燥により衰弱傾向が著しい。また、現地は訪れる人が多く、道近くのものによく枝を折られている。岩登りなどの際に折られることもある。生育範囲が狭く個体数も少ないので、注意が必要である。

【保全上の留意点】

遊歩道整備等の際には、特に注意が必要である。ロッククライミング等の岩場利用に際しても十分な配慮が必要である。

【特記事項】

西日本では、トサシモツケ var. *tosaensis* (Yatabe) Makino、キイシモツケ var. *ogawae* (Nakai) Yamanaka などの固有変種が知られている。

【関連文献】

保木本 II p.93, 平木本 I p.184, 平新版 3 p.86, SOS 旧版 p.59+図版 8, SOS 新版 p.50,52.